

# エッチュウバイの資源管理に関する研究

(第2県土水産資源調査)

向井哲也・曾田一志

## 1. 研究目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、エッチュウバイの資源生態およびばいかご漁業の漁獲実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行なう。これにより本資源の維持・増大とばいかご漁業経営の安定化を図る。

## 2. 研究方法

### (1) 漁業実態調査

TAC漁獲システムによる漁獲データと各漁業者に記入依頼を行なっている操業野帳を解析し、エッチュウバイの漁獲動向、資源状態、価格動向、漁場利用について検討を行なった。

### (2) 資源生態調査

JF大田支所ならびにJF仁摩支所に水揚げされる漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、この結果と銘柄別漁獲箱数からエッチュウバイの殻高組成を推定した。また、村山ら<sup>1)</sup>が求めたAge-length Keyを用いて漁獲物の年齢組成を求め、漁獲率の推定を行なった。

## 3. 研究結果

### (1) 漁獲動向

項目	数値	前年比	平年比**
総漁獲量(トン) *	124トン	153%	111%
総漁獲金額(万円) *	5,660万円	132%	84%
バイ漁獲量(トン)	105トン	161%	116%
バイ漁獲金額(万円)	3,960万円	137%	79%
操業日数	203日	108%	102%

\*タコかご含む

\*\*過去10年の平均との比

エッチュウバイの漁獲量は平成12年以降減少を続けていたが、平成18年度は前年に比べ増加した。ただし、単価は平均377円/kg(前年443円)と過去最低で、エッチュウバイの漁獲金額は3,960万円にとどまった。漁場は一部で拡大

(水深200-220m)があったものの、基本的には昨年度とほぼ同じで狭い範囲に集中している。

### (2) 資源状態

資源状態の目安となる1航海当たり漁獲量は平成12年以降下降を続けていたが、平成18年度は518kgと平成12年以前の水準になった。これは、例年に比べ大型貝の比率が高かったため、1航海当たり漁獲個体数では依然低水準に留まっており、漁獲物の殻長組成から小型貝の加入が認められず資源状態は依然低水準にあると考えられる。

## 4. 研究成果

調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばい部会の資源管理指針として利用されており、これを元に漁業者が自主的に漁獲量の上限を定めるなどの資源管理が行われている。

## 5. 文献

- 1) 村山達朗・由木雄一：島根県水産試験場事業報告書(平成4年度), 64 - 69 (1991).